

春は、新しい門出の準備で忙しいですが一方で親しい先輩、同僚の先生達との別れの季節でもあります。毎年、寂しさと切なさを感じながらも何かしらが始まるワクワクした複雑な気持ちが入り混じった時期です。令和8年新年祝賀会・医事功労者表彰式・受賞祝賀会、琉球大病院長ならびに琉球大学医学部長退任・就任激励の報告の内容は、まさにそれに当てはまる事柄かと思えます。

今月号も多数の報告・投稿があり、興味深い内容となっています。ちょうど編集後記を書いている3月は、2011年に東日本大震災が発生し津波、火災、原子力発電所事故などで2万2千人以上の死者や行方不明者が報告された大災害でした。当事者にとっては、長くて辛い15年であったと思います。それ以降、大規模な災害対処訓練も多くなり、今月号では出口先生から「美ら島レスキュー2025」、令和7年度九州医師会連合会救急・災害医療担当理事連絡協議会、九州医師会連合会第10回九州ブロック災害医療研修会の活動が報告されています。離島県の沖縄は、他県からの救援活動に時間を要するため他府県よりも長く自前で対応しないといけないことが予想され、訓練が日常生活の中に組み込まれてきています。

何かと話題にあがるAI (Artificial Intelligence: 人工知能) ですが、あまり使い勝手が分からない私にとって、第18回沖縄県医師会ドクターズフォーラム「医師のための生成AIのいろは」の記事はとても関心のある内容でした。リスクを理解しながらAIをパートナーとして上手に

利用し仕事や自己学習の効率化を図ることが、自分の時間・余暇を確保する有効な手段なのかと感じました。

令和7年度第1回地区医師会長会議では、医療従事者、特に看護師不足の対応についての会議内容が報告されています。沖縄でも病棟閉鎖は、数年前から見聞きしており多様な問題があるものの、看護師不足は最大の問題であることは間違いのないようです。

生涯教育コーナーでは、高橋健造先生が「沖縄県・琉球諸島に多い、稀な皮膚病」をレクチャーしています。人類学的特徴、遺伝子分析、生活背景などの多様な側面から分析しておりとても面白く拝読しました。

3月上旬に関東へ出掛けた際、早咲きの桜を見かけました。「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」と平安時代の歌人、在原業平が詠んでいます。「もしこの世の中に桜というものがなかったなら、春を過ごす人の心はどんなにのどかであることだろう」との現代語訳ですが、春を告げる代表的な桜に嬉しさと寂しさを感じるのは日本人の遺伝子に刻まれているものかもしれません。

広報委員 久志 一朗

